

↓ 当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<https://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さてこのたび、下記項目の検査受託を開始することとなりましたのでご案内いたします。

弊社では皆様のご要望にお応えすべく、今後とも検査の新規拡大に努めてまいります。

敬具

記

新規受託項目

- [12509] 鳥特異的IgG

受託開始日

- 2021年10月1日(金)



鳥特異的IgG

過敏性肺炎は、環境中の特定の抗原を繰り返し吸入することによって起こるⅢ型およびⅣ型アレルギー反応に基づく間質性肺炎の病型の一つです。その臨床像から急性と慢性に分類され、急性過敏性肺炎は抗原曝露後4～12時間で、せき、息切れ、発熱、全身倦怠感などの症状を呈します。一方、慢性過敏性肺炎は急性症状を認めることは稀であり、数カ月から数年間にわたり、せき、労作時呼吸困難、全身倦怠感、食欲不振、体重減少などを呈します。いずれの場合でも過敏性肺炎の治療には、早期の原因特定と徹底的な抗原回避が重要と考えられています。

過敏性肺炎のなかでも、鳥排泄物（鳥飼育、自宅庭への鳥飛来、鶏糞肥料使用など）や羽毛（羽毛布団、ダウンジャケット、剥製など）に含まれる抗原が原因となり発症するものが鳥関連過敏性肺炎です。

鳥関連過敏性肺炎の診断における原因抗原の特定には、環境誘発試験や抗原吸入誘発試験が最も信頼性の高い診断法とされています。しかし、これらの診断法は症状再現率が必ずしも高くはないという問題があり、身体的負担も大きく、特に抗原吸入誘発試験は患者の症状増悪を誘発するリスクがありました。

本検査は、蛍光酵素免疫測定法（FEIA法）により血液中のセキセイインコおよびハトのIgG抗体価を測定する低侵襲かつ客観性を有する検査です。鳥関連過敏性肺炎の診断補助検査として2021年6月に保険適用されました。

検査要項

項目コード	12509
検査項目名	鳥特異的IgG
検体量	血清 0.5mL [容器番号：01番→02番]
保存方法	凍結
検査方法	FEIA
基準値	判定 : 陰性(－) セキセイインコ : 8 mgA/L 未満 ハト : 24 mgA/L 未満
所要日数	4～9日
検査実施料	873点*
判断料	144点(免疫学的検査判断料)
報告下限	2 mgA/L 未満
報告上限	200 mgA/L 以上
報告桁数	整数、有効3桁
備考	* : 診察または画像診断などにより鳥関連過敏性肺炎が強く疑われる患者を対象として測定した場合に、区分番号 [D012] 感染症免疫学的検査の「52」抗トリコスポロン・アサヒ抗体の所定点数を準用して算定できます。 なお、本検査が必要と判断した医学的根拠を診療報酬明細書の摘要欄に記載する必要があります。

参考文献

Shirai T, et al. : Allergology International 70 (2) : 208-214, 2021.